

41 ベルガモ (イタリア)

城塞都市、現代都市、そして田園



上の街と下の街をつなぐ視線

イタリアの小さな街にひとつだけ行くのなら、ベルガモがよいかもしれない。ベルガモには、特異な地形のおかげで、中世からルネサンスにかけての古い街も、19世紀以来の現代の日常が見られる街も、どちらもあふからだ。前者は高台の上に城壁に囲まれて築かれ、典型的なイタリアの城塞都市を見ることができ、後者はその下に広がっていて、そこそこに洒落たショッピングをすることもできる。さらに街の背後の斜面には、緑豊かな一戸建ての住宅も点在している。これらをすべて安全に歩いてまわることができて、しかもミラノからローカル線で1時間という距離にある。

ベルガモは大きく2つの地区からなり、高台の街をアルタ、下の街をバッサと呼ぶ。バッサはアルタの郊外¹という位置づけではあるが、すでに紀元前の古代ローマ時代から2つの地区ができていたという。

ベルガモの駅を降りると、イタリアの小さな都市には珍しい広い直線の並木道がはじまっている。ここをしばらく行くとドニゼッティ劇場²などがあるバッサの中心部に出る。ここで出色なのは前方正面にアルタの街の複合的な固まりが見えることである。この景観は、直線道路がアルタに向けて軸線を通してはいるからにはかならず、19世紀中頃につくられたこの道路の優れた計画を示している。この道路の広さと方向は近代の交通をさばくと

もに、バッサとアルタという街の2つの地区を視覚的につなぐ装置ともなっているのである。

直線道路に直交する方向に行けば、商店が連なる歩行者専用の散歩道となる。ここで興味深いのはミラノの通勤圏にありながら、単なる大都市郊外になることなく、個人商店が北イタリアの豊かさを示してか、なかなか結構な商品を扱っていることである。

現代の賑わいを抜けて、直線道路を進んでいくと、やがてアルタのふもとに達し、そこにアルタに登るケーブルカーの駅がある。

ルネサンスのままの街

ベルガモ・アルタは古代ローマの植民都市にはじまるが、現在の街並みは中世からのものである。とりわけ、アルタの中心部であるピアッツァ・ヴェッキア周辺の、ヴェネツィアの支配下にあったルネサンス期の広場と建築が知られている。ピアッツァ・ヴェッキアに建つパラッツォ・デッラ・ラジオーネ（公会堂）にはゴシックの窓の上に、ヴェネツィアを示す獅子のレリーフが載っている³。この建物の横を通して市民の広場を抜けると、次は教会や礼拝堂のゾーンである。

ベルガモでもっとも有名な建築は、コッレオーニ礼拝堂であろう。ヴェネツィアの傭兵隊長であった人物の名を冠したこの礼拝堂は、1476年に建てられ、当時の理想であった集中式聖堂の実現例



図1 ベルガモ・バッサの大通りからベルガモ・アルタを見上げる 直線道路の先に街が見える



図2 ベルガモ・アルタの中心ピアッツァ・ヴェッキア 正面がパラッツォ・デッラ・ラジオーネ（公会堂）

*1 ラテン語で郊外を示すsuburbiaはsub-urbia、すなわち副-都市。英語のsuburbの語源。

*2 ドニゼッティはベルガモ出身の19世紀のオペラ作曲家。ちなみに2007年1月に浜松アクロシティにこの劇場の公演「ランメルモールのルチア」が来るそうである。

*3 イタリアの伝統的な仮面喜劇、コンメディア・デッラルツェはヴェネツィアで発展したが、その主人公役のアレッキーノはベルガモ方言を話すことになっている。

*4 ベルガモは2006年6月にユネスコ世界遺産の暫定リストに登録された。

として建築史では知られている。それほど大きくはないが、それゆえにきわめて手の込んだ大理石による装飾がなされている。

ベルガモにはバッサという郊外がはじめからあったため、ルネサンス以降の展開はバッサが担うことになった。そのためにアルタはコッレオーニの時代のままに保存されたのである。

ヴィラが点在する田園

ベルガモ・アルタは16-17世紀にかけてつくられた稜堡に囲まれており、城壁を通れるのは4つの門からだけである。そのもっとも山側の門を出ると、カナーレ地区といい、そこには南斜面に豊かな一戸建てのヴィラが点在する田園の光景が広がっている。

稜堡の上を通る道に沿って、カナーレ地区とその下に広がるバッサとを眺めにおさめながら、もっとも街側の門まで来ると、バッサとアルタとの位置関係を確認することができる。バッサで通っていた直線道路は、この門の真下に見えるのである。まるでアルタの門を出る古い玉石敷きの道が、そのままバッサの大通りに続いているかのような景観は見事である。



図3 コッレオーニ礼拝堂 ルネサンス期の集中式礼拝堂

中世以来の城塞都市、商業地として発展してきた現代都市、田園のなかのヴィラのいずれもが、景観的調和をもってコンパクトに構成され、ベルガモは小さな街の見本のようなものである⁴。

参考文献

『イタリア旅行協会公式ガイド1 ミラノ/イタリア北西部』NTT出版,1995
ユネスコ世界遺産HP、<http://whc.unesco.org/en/tentativelists/331/>



図4 アルタからカナーレ地区(左)とバッサ(右)を見下ろす 緑豊かな斜面と郊外がバランスよく展開している



図5 アルタの城壁を出る門 下にバッサが広がっている



図6 アルタの門から出る道と、バッサの大通りが視覚的につながっている